



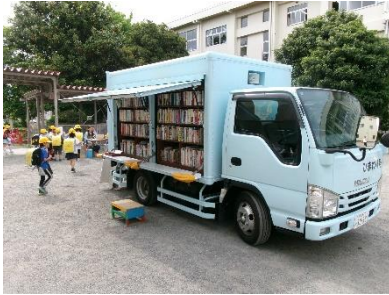
座間小キャラクター
ざまたん

校長のつぼやき^{ぶ?}

座間市立座間小学校
校長 石田 正行

日頃、気づいたことなどをちょっとずつ、つづやいていきたいと思います。時にはぼやきになってしまうかもしれませんが、なのでつぼやき…。

ひまわり号



ひまわり号は座間市立図書館から来る移動図書館です。トラックの荷台には子どもたちが好きそうな本がびっしり。

1年生の下校時間にやってきたので、1年生は下校どころではありません。興味津々です。



残念なことに手続きの関係で1年生が借りられるのはもう少し先。さまざまな本がデジタルで読める時代ですが、手に取って選ぶ楽しさや紙ならではのギミックなど、本の魅力はかわりません。

不審者対応訓練



今から24年前に大阪教育大学附属池田小学校で起こった事件は、今でもよく覚えています。池田小事件として語り継がれ、この事件の教訓が全国の学校管理体制を大きく変えたことは間違いありません。

それまで学校、特に小学校は、校庭にいつでも自由に入ることができました。授業時間中も、地域の方がお孫さんを連れて校庭のはじっこで楽しそうに眺めていたり、放課後はたくさんの子供たちが所狭しと

遊んでいたりました。なので私も、子どもたちが呼びに来ると校庭と一緒に野球をしたり相撲をとって遊んでいました。

夏休みになると、夜は花火を楽しむ親子が来たり、冬休みには凧あげをしたりするなど、校庭に人がいない日はほとんどなかったと思います。

しかし、事件を機に、世の中は一変しました。

いかに子どもと職員の命を守るか。校門は閉ざされ、職員玄関には来校者名簿と名札。教室のドアには内カギ。児童全員に防犯ブザー。各校舎にさすまたを置くなど、さまざまな対応が行われました。不審者対応訓練もその一つです。訓練とはいえ、大声を出されたり、ドアをたたかれると、常に冷静でいるのは難しいと感じます。

被害者を出さないためには、火災・地震に加え今回の訓練は欠かせないものです

